

# 第24回日本検査血液学会学術集会 ランチョンセミナー 9

## ～血栓・止血検査領域における 検査部内コンセンサス～

座長

**叶内 和範** 先生  
山形大学医学部附属病院 検査部

演者

**結城 智嗣** 先生  
山形大学医学部附属病院 検査部

**井上 祐太** 先生

独立行政法人国立病院機構 広島西医療センター 臨床検査科

日時

2023年7月30日(日) 12:05～12:55

会場

ウインクあいち 第3会場 「602・603」

\*お申し込み方法等につきましては、第24回日本検査血液学会学術集会ホームページをご参照ください。



第24回日本検査血液学会学術集会website

## 機器展示

日時

2023年7月29日(土) 8:50～17:00 (予定)

30日(日) 8:50～15:00 (予定)

会場

ウインクあいち 8階 展示会場

展示機器

全自動血液凝固分析装置

ACL TOP 550 CTS シーティーエス

一般医療機器 特定保守管理医療機器  
一般の名称:血液凝固分析装置

販売名: ACL TOP 550 CTS シーティーエス  
製造販売届出番号:13B2X10481000021

# 第24回日本検査血液学会学術集会

## ランチセミナー 9



### 血栓・止血検査領域における検査部内コンセンサス

#### ① 血栓・止血検査におけるキレイな報告の実践

結城 智嗣 先生 (山形大学医学部附属病院 検査部)

近年、ISO15189の導入や凝固検査検体取り扱いに関するコンセンサスによって血栓・止血検査領域の標準化は確実に進んでいる現状がある。一方で、検査室内での部署間ローテーションや普段担当していない慣れない技師が日当直業務で血栓・止血検査を行うため、経験年数や力量の差を埋め、どのようにして検査精度を向上させていくかが課題である。患者検体の向こう側にある臨床を常に意識しながら、自動分析装置から出力された測定結果が妥当であるかどうかを確認し、「キレイな報告」を実践するためのスキルを検査担当者に教育していくことは、日常業務で血栓・止血検査を担当している我々の責務である。そのために採血前の患者情報取得から採血手技、適切な検体処理方法を行い、結果解釈までの一連の流れを体系化して周知する必要性がある。本セミナーでは血栓・止血検査領域において、経験値の差を埋めて「キレイな報告」を実践するための勘所を広く周知したい。

#### ② ACL TOP機能を生かした臨床への情報配信(凝固波形解析)

井上 祐太 先生 (独立行政法人国立病院機構 広島西医療センター 臨床検査科)

凝固検査とは、体内での止血能を評価するために一旦体外に血液を取り出し、採血管内という特殊環境下でそれを評価する検査である。そのため採血時の状況や採血量などの影響を受け、真値を示さなくなることがある。検査技師は偽値となるパターンを把握し、凝固検査値の真偽を検討したうえで結果承認に臨まなければならない。仮にCBC用採血、凝固用採血双方とも凝血していることを見逃し、その意識も保たずに異常値をそのまま結果承認してしまえば、PLT低下、PT・APTT延長、FBG低下、FDP増加とDIC様の偽値を返してしまうことになり、臨床現場の混乱を招いてしまう。さらに、真偽の判断だけに留まらず、異常値を見たときには追加検査のアドバイスができるようにも心掛けておきたい。本院では凝固時間延長データに遭遇した際、①抗凝固薬投与の有無②肝予備能低下の有無③DIC④先天性や後天性などの出血性疾患の有無を確認し、鑑別に必要な追加検査等を考え、臨床からの問いに円滑に対応できるよう準備している。凝固検査検体取り扱いの標準化が進む中、異常値に対する考え方や精査方法などは施設ごとの試薬や分析機器により異なってしまう。本講演では、本院での結果承認に至るまでの実際の流れをお伝えすると共にACL TOP機能を活かした異常値の精査、診断までの方向付けなどをご紹介する。また、凝固検査の精度向上を目標として実施したヘパリン濃度測定の見直しについても併せて紹介したい。

共催 第24回日本検査血液学会学術集会 / アイ・エル・ジャパン株式会社

製造販売業者

アイ・エル・ジャパン株式会社

〒108-0073 東京都港区三田一丁目3番30号

E-mail: info-japan@werfen.com Tel: 03-5419-1301



website

werfen